

「地域包括ケア体制構築推進プロセスシート ～状況を整理し目標を達成するために～」の使い方

長野県健康福祉部介護支援課

■目的

このシートは、「地域包括ケア」という、つかみどころのないイメージの中で日々取り組んでいる事業プロセスを、わかりやすく整理するために作りました。

長野県に住む高齢者が、自分のことを大事にしながら、それぞれのしあわせを実感しながら住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、自治体、地域包括支援センター、社会福祉協議会、事業所等で、自分たちが取り組んでいることを振り返りながら効果的に事業推進をしていくためのシートです。

海外で開発された、事業を実施する関係者の認識や行動に関する9つの評価指標*（実装アウトカムといいます）について、県内6自治体の担当課職員や有識者との議論を重ね、現場で活用しやすいシートの形にしました。

■本シートの意義

- ①担当事業についての評価視点（意味付け）を確認できます。
- ②困ったときにこのシートに立ち返ることで課題や方向性が整理されます。
- ③個人だけでなくみんなで共有することで、困りごとにみんなで気づき解決策が見えてきます。
- ④何のために事業をしているか、改めて目的を明確にしながら取り組むことができます。
- ⑤強みを言語化でき、相互理解ができるツールになります。
- ⑥異動の際、なぜこの事業をしているか背後の意図・想いも伝えることができ、質の高い事業を維持していくことができます。

■使い方

まずは個人で使い、その後みんな（集団）で共有していくことをお勧めします。

	個人	集団
いつ？	随時	年度末や年度始めなど
誰と？	自分でチェックをしてみる。	係、課、部、庁内他部署、委託先（地域包括支援センター・社会福祉協議会・事業所等・NPO）等。
何を？	事業のやり方（How）について	事業のやり方（How）について
どのように？	-困っていることはどの評価項目か確認する。	-個人で整理したことを出し合い、共有する。

	-自分が考えていることは何か書く。 -何をみんなで検討したいか考える。 -できていることはどの部分か確認する。	-それぞれの考えを共有することで、違う視点、考え方を知る。 -大事なことは何か、具体的に何をしていくかみんなで考える。
--	---	--

■使う場面のイメージ

- ・事業がうまく進まないとき、どこにつまずきがあるのか確認する。
他者に相談するきっかけとする。
- ・年度末、1年間の振り返りと来年度について検討する
- ・異動の際、引継ぎで使う
- ・年度始めに、異動してきた人と事業について確認する
- ・年度途中に、この方法でいいのか個人で見直してみる

■シート中の「評価スケール」の補足

・「評価スケール」は、各評価の視点を「意識しているか」と、実際に「行動しているか」を1～5段階で分けています。意識していることと行動していることを分けて考え、大事な行動につながっているか確認してみてください。

※外部の人に評価されることはないので、率直に評価してみてください。

※年度始めと年度末の自分たちの評価項目の変化にも着目してみてください。

※今よりも、より良い一歩を進められるよう、自分たちの取組状況を俯瞰してみてください。

■注意事項

- ①まずは、主観的・直観的な部分を大事にし、書けそうな部分から書いてみてください。
(全部埋めようとしない)
- ②このツールを使って多くの人と対話していくことをお勧めします。
- ③ある程度の時間や手間もかかりますが、効果的な事業展開のため、日時やメンバーを決めて時間を作って取り組んでみてください。

【本シート作成にあたって参考にした文献】

*内富庸介（監修）、梶有貴、島津太一（監訳）、『ひと目でわかる実装科学：がん対策実践家のためのガイド』、保健医療福祉における普及と実装科学研究会、2021。

*Proctor E, et al Outcomes for implementation research: conceptual distinctions, measurement challenges, and research agenda. Adm Policy Ment Health. 2011 Mar;38(2):65-76.

